

農研機構 西日本農業研究センター 市民公開シンポジウム

有機農業でつながる 環境・地域・未来

2023
11月16日木

13:00 ~ 15:30

12:00 受付開始

食、自然、暮らし、そして人を豊かに育み・つなげる有機農業。地域の皆様とともに有機農業への理解を深め、持続可能な地域社会を次の世代につなぐためにできることを考えます。

ハイブリッド開催

会場 90名 + Zoom配信

どなたでも参加できます

参加無料
事前申込制

会場：東広島芸術文化ホールくらら
小ホール 広島県東広島市西条栄町7番19号

<第一部 基調講演>

「持続可能なフードシステムってなに?」 澤登 早苗 (恵泉女子大学)

「オーガニックビレッジとしての取組」 山村 博樹 (神石高原町産業課)

「農業が育む生きものたち」 小林 慶子 (農研機構 西日本農業研究センター)

<第二部 パネルディスカッション>

モテレーター

小谷 あゆみ
農ジャーナリスト/
アナウンサー

パネラー

澤登 早苗
恵泉女子大学
西本 葉子
やまぐち食育くらぶ

森 昭暢
安芸の山里農園はなあふ
楠本 良延
農研機構 西日本農業研究センター

伊勢村 文英
神石こだわり農場

お申し込み

QRコードまたは下記URLよりお申し込みください【定員になり次第締切】

<https://business.form-mailer.jp/fms/0da00a78195361>

お問い合わせ先 農研機構 西日本農業研究センター 広報チーム
E-mail : warc_symp_info@ml.affrc.go.jp



主催：農研機構 西日本農業研究センター

後援：中国四国農政局・東広島市・神石高原町・有機農業研究者会議

2023
11/16 木
13:00 ~ 15:30
12:00 受付開始
ハイブリッド開催

農研機構 西日本農業研究センター
市民公開シンポジウム
**有機農業でつながる
環境・地域・未来**

おもな登壇者



小谷 あゆみ
農ジャーナリスト/アナウンサー

石川テレビ放送アナウンサーを経て2003年から農ジャーナリスト、フリーアナウンサーとして活動。野菜をつくるアナウンサー@ベジアナとして、都市と農村のフェアな関係、農の多面的な価値などをテーマに講演・執筆・取材活動を行うなど幅広く活躍。農林水産省世界農業遺産等専門家会議の委員等も務める。



澤登 早苗
恵泉女学園大学 人間社会学部 教授

園芸学、有機農業論、食農教育論が専門。有機農業が持つ人を育てる力や社会問題を解決する可能性を研究。山梨にある果樹園を受け継ぎ、自らブドウの有機栽培も手がける。日本有機農業学会で会長・理事を歴任し、有機農業研究を牽引するとともに、やまなし有機農業連絡会議代表、峡東地域世界農業遺産協議会アドバイザとして地元山梨でも活動。



森 昭暢
安芸の山里農園はなあふ 代表

健康を支える食と暮らしを実現したいとの思いから、勤めていた会社を退職し、2011年に東広島市で「はなあふ」を設立。有機・自然農法で約40品目を栽培。多様な人とのつながりを育みながら、地域の農業・環境を守る活動を展開。農林水産省の令和3年度「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で農産局長賞を受賞。



伊勢村 文英
神石こだわり農場 代表

神石高原町で40年以上にわたり有機農業を実践。地元の有機農家、福山市・尾道市の消費者らでつくる産消提携グループ「かたつむりの会」では、生産者・消費者とともに次の世代に受け継がれながら顔の見える交流を深めている。かたつむりの会は、農林水産省の平成26年度「環境保全型農業推進コンクール」で生産局長賞を受賞。



西本 葉子
やまぐち食育くらぶ 代表

家族の病気をきっかけに食育を学び、2007年に食育指導士の資格を取得。2009年に「やまぐち食育くらぶ」を結成し、地域の教育機関や子育て世代に向けた食育活動・講演を多数実施。山口市有機農業推進協議会食育部会長も務める中、有機給食の実現に向けた取組を行い、2022年に山口市でエシカル給食のモデル事業を実現。



楠本 良延
農研機構 西日本農業研究センター

植生生態学、景観生態学が専門。農村・農業に関わる人々の活動によって育まれる生物多様性の成り立ちについて研究。主な研究業績として、お茶の生産と生物多様性の関わりを明らかにし、「静岡の茶草場農業」の2013年世界農業遺産認定に貢献。現在、農林水産省世界農業遺産等専門家会議の委員も務める。

会場アクセス

東広島芸術文化ホールくらら小ホール
(広島県東広島市西条栄町7番19号)

詳しくは、くららホームページをご覧ください。
<https://kurara-hall.jp/>

